



Be Unique! 海洋ならではの挑戦 宮津産業ビジョン推進特別委員会 「ことばの力」トライアル



＜3年栽培環境コース 折戸 建蔵＞

今回、宮津産業ビジョン推進特別委員会に参加したいと思ったのは、普段水産について学習している私たちがアイデアを出すことによって宮津の水産を盛り上げることにつながるのなら、少しでも協力できないかと思ったからです。

この委員会に参加するまでは、宮津市の企業の方も参加されて難しい話になるのではないかと不安に思っていました。実際に委員会が始まって見ると、KJ法で一人一人が意見を出しやすい雰囲気でした。

企業の方々との意見交流の中で、宮津には目玉となる水産物があまりないことや、漁業者の方の高齢化が進み、若い漁業者が減っていることも大きな課題であることがわかりました。普段は大人の方と話し合う機会がないので、今回の委員会は私たちにとってとても良い刺激になりました。

このような課題が解決に近づくよう、将来は地元に戻って漁師になり、地域を元気づけたいです。

＜3年海洋技術コース 宮本 沙紀＞

今回、宮津産業ビジョン推進委員会に参加させていただき、商工会議所のみなさんと海洋高校生の約20名で交流を行い、とても勉強になりました。

交流会のテーマは「水産業の発展について」で、宮津市では何を取り組めばいいのかを考えました。

今回、海洋高校からは3コースの生徒が参加させていただきましたが、それぞれがコースならではのユニークな発想で討論に加わりました。私が所属する海洋技術コースの実習や研究活動では思いつかないことや知らないことを、他コースの生徒が発表していることも、新たな発見と感動がありました。また、商工会議所のみなさんもそれぞれの仕事や立場によって考え方が異なり、その生の声を聞くことができ大変勉強になりました。

今回の交流内容が宮津市の水産業の発展にすぐに役立つかはわかりませんが、私たちが現在行っている研究活動に活かし、再度このような意見交流にチャレンジしたいと思います。



＜海洋科学科 八田 裕一郎＞

私は、今回宮津商工会議所の産業推進特別委員会に参加し、海洋高校で学んだことが地元の活性化に役立てることができるということを実感しました。

海洋科学科での研究内容の一つに、「未利用魚の利用」というものがあります。底曳網漁業で漁獲されるサメ・エイ類は適切な処理をすれば美味しく食べることができ、歩留まりも悪くないので新たな産業への可能性はないだろうか、という内容を発表したところ、思いのほか商工会議所の方に興味を持ってもらうことができたからです。私たちは実際に、4月の底曳網漁業実習の際に漁獲されたナヌカザメやガンギエイを刺身で食べ、その後、自分たちで新たな調理方法を考えていったので話せる内容が多く、自分たちの行っている研究活動が活きていると感じました。

私は自分の意見をしっかりと持ち、提案することができたので、海洋高校で身に付けた積極性を実践で発揮でき、今回の経験を大学のAO入試の志望理由や自己PRにも活かしていきたいと思っています。